



## 「自分らしい生き方」

11月25日(火)に植松電機社長の植松 努さんをお招きし、1年生に向けて、ロケット教室と講演会を実施しました(2、3年生のみなさんは、昨年5月14日に県立武道館で植松社長さんの講演をすでに聞いています。ロケット教室は本年度からですが・・・)。本年度の学校経営目標は「ICTを活用し、AIにはできない独自性を発揮できる未来を担う人づくり～教育活動全領域で根幹をなす自分探しの『キャリア教育』～」です。本行事は、そのキャリア教育の一環として、開催したものです。キャリア教育とは、子どもたちが、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための教育です。これはまさに自分の生き方を問う教育です。

この行事とは別に、1年生ではものづくり体験(12/8、9に実施予定)、2年生ではトライやる・ウィークや先日行った進学先の高等学校調べ、3年生では自分の好きや興味についての探究学習、そして、全学年を通して実施している進路学習など、在りたい自分を見つけるための様々な活動を実施しています。もちろん普段の授業や定例行事、部活動もみなさんのキャリア形成に大きな役割を担っています。

植松さんは、全国の児童生徒に向け、「どうせ無理」と諦めるのではなく、足りない点をお互いが補い合って、それぞれの夢が実現できるように、とロケット教室や講演会を通じ、小さな自信を育む活動を続けておられます。

1年生は、11月14日(金)6校時に各クラスで1機ずつB型ロケットを製作しました。当日は、5名のマイスターの方にお越しいただき、必要最小限の助言をいただいたあと、ロケット製作を見守っていただきました。どのクラスも楽しく協力して製作できました。放課後に各学級の有志が残って作業してくれたおかげで、何とかその日のうちに完成できました。

ロケット教室の当日は、朝から雨が降っていましたが、幸いにも昼からは雨がやみ、運動場で実施できました。生徒たちは、自分たちが作ったロケットが無事に打ち上るのか、とわくわくしながら発射のカウントダウンをしていました。ロケットが勢いよく発射され、パラシュートが開いてゆっくりと下りてくる様子を見ながら、打ち上げに成功し、おおはしゃぎで喜んでいる1年生の姿は微笑ましかったです。また、その後の講演会では、熱心にメモをとりながら、約70分間にわたる植松さんの話に耳を傾け、真剣に聴く態度は立派でした。

日本はいま、急激に人口が増加した時代が終わり、総人口のピーク後に起きる人口減少や少子高齢化社会が到来しています。そのような状況のなかで、私たちはどのように自分らしく生きていくのか、今までに誰も経験していない課題に対し、どのように対処していけばよいのか。これからも自分自身の生き方を問い続ける必要があります。

植松さんは、これからの社会で台頭するAIやロボットに負けない生き方をしてほしい、そのためには、自主的ではなく、主体的な態度で物事に取り組んでいく必要がある、と述べられていました。

また、それぞれの夢を実現させるために、「自分の夢を色んな人にしゃべったり、本を読んだりしてほしい。夢を叶えるためには、やった経験のある人に尋ねるのがよい。やったことのない人に相談しても、どうせ無理だ、と諦めさせるような話しかしてもらえない。だから、色んな人に話をして、やったことがある人を紹介してもらったり、実現した人の伝記を読んだりして、夢を実現させてほしい」と。

そして、誰かが語った夢に対し、実現するのは無理だと、決めつけないでほしい、とも述べられました。この言葉は、私たち教師や保護者に向けて鳴らされた警鐘のように感じました。生徒が語る夢や目標に対し、生徒の可能性を信じてあげることこそが生徒のキャリア形成に必要な原動力になるのではないのでしょうか。

生徒のみなさんには、当事者意識を持って主体的に学ぶなかで、在りたい自分をしっかりと探し続けてほしい。そして、自分らしい生き方を自分自身の責任で選び、それぞれの人生を歩んでほしい、と祈念します。